

## 告 辞

桜の花が咲き、本格的な春の到来を感じさせる本日、新たに佛教大学の新入生となられます皆さん、ご入学おめでとうございます。佛教大学の教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、本日まで、大学院への入学を決意し実行された皆さんを支えてこられたご家族や関係者の皆さんに、心からお喜び申し上げます。

さて、本日よりさんは大学院生として、新しい環境に身を置き、新たな研究のステージで歩みをスタートすることになります。

佛教大学はこれまで一貫して、佛教精神を根底に、自分を大切にし、他者をも大切にできる人、そんな人材を100年以上にわたって社会に輩出してきました。通信教育課程は1953年4月に開設され、実に70年になろうとしています。さらに、通信制大学院は1999年に修士課程を、2003年に博士後期課程を開設し、大学院設置基準にもとづく正規の高等教育機関として、いつでも、どこでも、だれでも研究に従事できる場を提供しています。

本学の建学の理念であります佛教精神とは、佛教を開かれた釈尊と浄土宗を開かれた法然上人に共通の生き方を指します。それは眼の前に起こる現実を正しく見据え、自分のなすべきことをしっかりと行っていくことに他なりません。

佛教大学で研究を志す皆さんには、それぞれの研究過程で佛教精神に触れ、目の前にある研究材料をしっかりと分析し、自分にできる「知の探究」を行っていただきたいと思います。

そのために知的な「想像力」をかきたてましょう。想像力こそ、人間が人間であるための「智慧」の力の一つです。昨日を想像し、千年の過去を想像する力。明日を想像し未来を想像する力。家の周りを想像し宇宙の果てを想像する力。時間のあと先、空間のあらゆる場所を想像して、仮説をたて、それを実証することで、学問は発展してきました。皆さんは、それが所属する研究科、専攻で、想像力に磨きをかけ、仮説を実証し、学問を発展させ、自らの知見を確立してください。それぞれの学問で得た知見と佛教大学の佛教精神を受け継ぎ、さらなる生きる力をしていただきたいと思います。

いまだ世界中で猛威を振るっている、未曾有の新型コロナウィルス感染症によるさまざまな困難のなか、さんは今日に至っていることと存じます。社会が混乱する中で、私たち佛教大学も昨年度、新型コロナウィルス感染症の問題に直面し、大学が行うべき教育活動、研究活動なども大きく制限を受ける状況となりました。残念ながら私たちの日常は大きく変容してしまいました。昨年度、入学された方には、入学式が執り行われず大変申し訳ありませんでした。そのような困難な状況に遭遇しても、通信教育課程を含めました大学におけるすべての「研究を止めない」ことを基本姿勢とし、ICTを活用することで、大学のすべての営みを継続させる方策を進めてきています。

一方、このような困難な状況は、いましばらく続くものと考えなければなりません。新型コロナウィルス感染症という危機的状況にも適切に対応しながら、大学院生の皆さんの安全に配慮しつつ「研究を止めない」ために必要な対策を積極的に行っていきますので、コロナ禍における大学院生としての自覚ある行動をとっていただくことをお願いしたいと思います。

厳しい状況の中でのスタートではありますが、入学されましたすべての皆さん、本学大学院での研究活動を通じて想像力に磨きをかけ、新しい学問的知見を手に入れて、それぞれの目的にそって着実に研究を進め、あきらめることなく所期の目的を達成されますことを心から祈念し、告辞といたします。

ご入学おめでとうございます。

令和3年4月3日

佛教大学長 伊藤 真宏